

埼玉で発見 希少な水草 食虫植物 「イヌタヌキモ」

「学習に生かしたい」

埼玉県環境アドバイザーで、子どもへの環境学習に取り組む橋本健一さん(52)が、いたま市川が、同市緑区の池で希少な水草「イヌタヌキモ」を発見し、今日(4日)論文がインターネットで発表された。黄色の花を咲かせる食虫植物で、県レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。橋本さんは希少種はその場所のシンボルになる。自然環境の保全を伝える環境学習に生かしたい」と意気込む。(金森有紀)

環境アドバイザー 橋本さん



イヌタヌキモの標本を手にする橋本健一さん。2日、いたま市中央区の大日本タイヤコンサルタント関東支社。



イヌタヌキモの花(橋本健一さん提供)

「ここ、緑区の池で見たことのない植物を発見した。ぼつぼつとした花があり、ムジナモに似ていた。珍しい植物かも知れないとこめいた」と橋本さんは振り返る。論文や図鑑で調べ、同年8月に水面上に咲いていた黄色い花をさがかり、イヌタヌキモにたどり着いた。24年春、水草に詳しい国立科学博物館の学芸員にも確認を取

り、同館標本が登録・収蔵された。イヌタヌキモは県レッドデータブック2011で絶滅とされたが、その後、加須地帯に存在が確認され、今年3月に公された22年版では「絶滅危惧Ⅱ類(絶滅の危険が増大している種)」に指定されている。今回の発見をまとめた橋本さんの報告は、県立川の博物館寄居町が発行する「紀要(第26号)」に掲載された。同池でスズレンやコイなどの外来種も確認されており、外来種の増加に伴い、希少種が姿を消す可能性がある」として、ためらっていたが、最後は意欲を示している。川や池に入ることを最初は

て保育対策についても触れている。論文は川の博物館のホームページで閲覧できる。橋本さんは「夢中になることが大事。川や魚を好きになると、地域の自然を守る」という気持ちにつながる。実際に水の中に入ることもできる」と語る。イヌタヌキモのような希少種は、保全の重要性を伝える好例となるため、今後は現地での環境学習を検討中。橋本さんは「いたま市内は子どもが遊べる水辺が少ない。今後、楽しく遊びながら安全な水辺づくりにも取り組んでいきたい」と意気込む。